

福島市花見山と栗子連山

——平成最後の春——

大滝会特別会員 鹿摩貞男

はじめに

福島市花見山は、花木園芸農家であった阿部家が自宅前の雑木山に長年にわたり花木を植えて観賞していたものを昭和 34 年（1959 年）に「花見山公園」として一般の方にも開放したのが始まりという（花見山公式 HP より）。平成 31 年（2019 年、令和元年）は開園 60 周年の記念の年になるようです。

さて、平成最後の春となった 4 月 8 日（月）と 13 日（土）の二日にわたって福島市花見山を見物してきたので報告します。特に後半の 13 日はほぼ快晴で大変な人出であったがソメイヨシノもほぼ満開の感じで平成最後の花見を満喫することができました。本稿では、13 日撮影分の写真を中心に報告する（撮影月日を記載していない写真は 13 日撮影分、それ以外は 8 日分を含め撮影月日を記載）。

紹介は原則的に、花見山において設定されているコースごとにおこなうけれども、栗子連山を背景にしたものは最後に一括表示してみた。

なお余談であるが、平成 31 年 3 月 31 日（日）早朝には福島市内で激しい雪となり 2 cm の積雪となった。また、4 月 2 日から 3 日（水）にかけても雪となり自宅付近では 7 cm の積雪となった（トータル 9 cm の降雪）。4 月の積雪は平成 25 年（2013 年）以来 6 年ぶりだそうである（福島民報：福島地方気象台）。13 日の花見山でもまだ日陰などに残雪がみられ、湿った重たい雪となったためか、あちこちに折れた枝が見られた。（参考写真-1）



【参考写真-1】 春の大雪、満開の山茱萸（サンシュユ）も雪化粧。
H310403

〈花見山見学コース概要〉

花見山（本体）は、東西に流れる阿武隈川右支川くるみ川（くるみ沢）とくるみ川の左支川で南北方向に流れる鈴ヶ入川（すずがいがわ）に囲まれた山地で山全体がお花畑になっている。花見山山麓の北側から望む正面、右側（西）、左側（東）共に良い眺めである。その鈴ヶ入川の西側丘陵地の東斜面も全体がお花畑で、頂上のソメイヨシノ、山腹の大きなハクモクレンが圧巻で裾野に広がる菜の花やレンギョウも素晴らしい。

花見山（本体）の頂上へは、所有者である阿部家前から遊歩道を上って行き、頂上から南側に通って東側から北側に回り上り口の阿部家前に戻り一周する「60 分コース」がある（「60 分頂上

コース」と称する)。また、頂上までには行かずに途中から近道を回って上り口に戻るそれぞれ「45分コース」「30分コース」というものもある。

花見山の裾野、くるみ川右岸沿いに上流側に向う「花の谷コース」(往復路)があり吾妻連峰を背景とした絶景を眺望することができ、周囲にはハナモモ・サクラ・レンギョウ・ボケなどさまざまな花木があつて楽しめる。また栗子連山も全体を良く望むことができる。本コースは、往復路が別々になっている。スタート(往路)は他のコースと同じで、花見山公園入口(花見山公園前観光案内所:ログハウス)となっているが、終点(復路)は北側にある駐車場(観光案内所花見山本部)となっている。また、この花の谷コースと一部重複する形で「ゆずりあいコース」(車イス通行可)も設定されている。

なお、花見山公園の入口には「花見山公園前観光案内所」が鈴ヶ入川にかかる木橋の所にあり、そこから下流にある駐車場まで、鈴ヶ入川の左右岸沿いに歩行者専用道路(ウォーキングトレイル、以下遊歩道と称する)が整備されている。本稿では、原則的にコースとして市道から上の遊歩道から望む花見山西側丘陵地を紹介する(「鈴ヶ入川左岸コース」と称する)。

以下、①鈴ヶ入川左岸コース ②60分頂上コース ③花の谷コース(往路) ④花の谷コース(復路) ⑤栗子連山あれこれ、の順序で紹介していきたい。(別添「花見山周辺MAP」(一般社団法人 福島市観光コンベンション協会HPより)参照)

1. 鈴ヶ入川左岸コース

花見山西側丘陵地の東斜面と花見山(本体)の西側とを、鈴ヶ入川左岸遊歩道(ウォーキングトレイル、歩行者専用道路)及び一般市道から望むことができ絶景である。

この遊歩道コースは、鈴ヶ入川にかかる木橋(花見山公園前観光案内所・花見山公園入口)付近までで、そこから人家へ続く2本のルート(一般市道)があるが何れも途中からは進入禁止になっている。途中に出店があり、そこから鈴ヶ入川沿いに市道を若干進むことができる。以前はかなり先まで行くことができたが一般住家があるので迷惑がかかっていたのかも知れない。

(写真-1①~写真-5③)



写真-1① 木橋を渡って鈴ヶ入川左岸コースへ



写真-1② 花見山西側丘陵地東側斜面を望む。



写真-1③ 丘陵地頂上のソメイヨシノ(満開)



写真-2① 花見山西側丘陵地と菜の花。
4月13日、土曜日人波絶えず。



写真-2② 花見山西側丘陵地と菜の花。



写真-2③ 全



写真-2④ 全



写真-2⑤ 全



写真-2⑥ 全



写真-3① 木橋(花見山公園前観光案内所)
付近から東側斜面を望む。



写真-3② 全



写真-3③ 全



写真-3④ 全



写真-3⑤ 全



写真-4① 鈴ヶ入川左岸コース終点部から
東側斜面を望む。



写真-4② 全



写真-4③ 全



写真-4④ 全



写真-4⑤ 全



写真-4⑥ 全



写真-5① 鈴ヶ入川上流部出店付近。



写真-5② 花見山西斜面
(頂上部は60分コース平坦部を
鈴ヶ入川(上流)沿い市道から望む。



写真-5③ 花見山西斜面を鈴ヶ入川(上流)沿い
市道から望む。H310408

2. 60分頂上コース

本コースは、花見山北側斜面を正面から上り、頂上からは南側に下り左側(東)に回り込んで進み上り口(阿部家の前)に戻る。頂上までは、最初に急な七曲坂を登り中程に平坦部があって、続いてやはり急な二つ目の七曲坂を上ると頂上に達する。途中から、花見山西側丘陵地の東斜面、栗子連山なども見ることができる。頂上には四阿^{あずまや}やベンチ等の休憩施設があり、北側の山地や平地のお花畑を一望でき、吾妻連峰や栗子連山、信夫山を眺望することができる。

(写真-6①～写真-11⑤)



写真-6 ① 花見山(本体)全景(正面)。
60分頂上コースは正面を上って
行く。花見山公園入口市道(花の
谷コース帰路)から望む。
H310408



写真-6 ② 花見山頂上を望む。
四阿(あずまや)が見える。
H310408



写真-6③ 花見山公園入口(2019年、開園60周年
記念モニュメント・昭和34年(1959年)
阿部家花木園を花見山公園として一般
開放) H310408



写真-6④ 60分頂上コース、最初の七曲坂から
花見山西側丘陵地の東斜面を望む。



写真-6⑤ 全



写真-6⑥ 全 H310408



写真-7① 60分頂上コース平坦部、
30分コース分岐点付近から望む。



写真-7② 全



写真-7③ 平坦部から西側(吾妻連峰
高倉山)を望む。



写真-7④ 全



写真-7⑤ 平坦部から北側(栗子連山)を
望む。



写真-7⑥ 平坦部から花見山頂上を望む。



写真-7⑦ 全 北東方向ハート形(菜の花)を望む。手前の道路は花の谷コース・復路。 H310408



写真-8① 60分頂上コース、二つ目の七曲坂から福島市街地、信夫山を望む。



写真-8② 全 平坦部を望む。



写真-8③ 30分コースを望む。
H310408



写真-9① 花見山頂上 四阿



写真-9② 花見山頂上、奥は吾妻連峰。



写真-9③ 花見山西側丘陵地の東斜面を望む。



写真-9④ 頂上から望む吾妻連峰。



写真-9⑤ 花見山頂上から望む吾妻連峰(吾妻小富士)。



写真-9⑥ 頂上から望む安達太良連峰(左箕輪山、右鬼面山)。



写真-9⑦ 信夫山を望む。



写真-10① 60分頂上コース、花見山頂上からの下り坂(南側) H310408



写真-10② 全 (オカメザクラとレンギョウ)
H310408



写真-10③ 全 (オカメザクラ) H310408



写真-10④ 全 (オカメザクラにメジロ)
H310408



写真-11① 60分頂上コース、花見山頂上
からの下り坂(東側)・(サンシュユ)
H310408



写真-11② 全・(トウカイザクラのトンネル)
H310408



写真-11③ 全・(サンシュユとトウカイザクラ)
H310408



写真-11④ 60分頂上コース、花見山頂上からの
下り坂(北側)・(ハナモモとサクラ)



写真-11⑤ 全・(モミジ若葉)

3. 花の谷コース(往路)

本コースは、花見山公園入口から山頂へは行かずに山裾を東側に進みくろみ川右岸沿い上流側の滝ノ下橋(すぐ上流に床固工^{とこがためこう}:河床の洗掘を防止する施設)まで行き、さらに市道を左側へ進む。その床固工付近は撮影ポイントになっていて、吾妻連峰を背景に花見山西側丘陵地の東斜面を収めることができる絶景の場所で多くのカメラマンがいる。

その市道を進むと最高点(最奥)があり西側が開けて、吾妻連峰や栗子連山が一望できる撮影ポイントとなっている。(写真-12①~写真-15③)



写真-12① 花の谷コース・往路。(起点付近
から花見山を望む)



写真-12② 全(中間点付近から花見山を望む。
奥の白い山は安達太良連峰・箕輪山。)
H310408



写真-12③ 全（中間点付近から花見山を望む。）



写真-12④ 全（滝ノ下橋付近から花見山東側を望む。）



写真-12⑤ 全 竹ノ下橋(くるみ川)から撮影ポイント(床固工の上)を望む。左の道路が花の谷コース・往路、写真奥を左に折れて少し進むと最奥。



写真-13① 花の谷コース・往路、滝ノ下橋付近撮影ポイント(左側案内板)。(シスターも足を止めパチリ)



写真-13② 花の谷コース・往路、滝ノ下橋付近撮影ポイントから望む(吾妻連峰)。



写真-13③ 全



写真-13④ 全



写真-13⑤ 全



写真-14① 花の谷コース最奥撮影ポイントから望む。(吾妻連峰)



写真-14② 全



写真-14③ 全



写真-14④ 全



写真-14⑤ 全 (花見山西側丘陵・東斜面)



写真-15① 花の谷コース最奥撮影ポイントから望む。(花見山東側)



写真-15② 全 (花見山頂上・四阿)



写真-15③ 全 (60分頂上コース平坦部)
H310408

4. 花の谷コース(復路)

花の谷コースの復路は、前述の最奥箇所から左に曲がり往路に併行している市道を西に戻り暫く行くと変則十字路(食違い十字路)があり左折すると花見山公園入口へ至り(花の谷コース起点)、花の谷コース復路(市道)は右折し北側へ進み花見山駐車場(花見山の季節には一般車は利用出来ない)が終点となる。この市道から花見山(本体、西側丘陵地)の眺めも素晴らしいけれども、両側にボケ(木瓜)やレンギョウ、トウカイザクラなど、また花見山北向かいの山地斜面頂上のサクラやハナモモ、レンギョウなどのお花畑も望むことができる。

(写真-16①～写真-17④ 10枚)



写真-16① 花の谷コース・復路、変則十字路
東側から望む。
(左側小山は殿上山)



写真-16② 全



写真-16③ 花の谷コース・復路、変則十字路
付近から北側を望む。
花見山(本体)の北向い山地。
H310408



写真-16④ 全(頂上部)H310408



写真-16⑤ 花の谷コース・復路変則十字路
北側から望む。花見山(本体)の
北～北東向い山地。 H310408



写真-16⑥ 全(ボケ)H310408



写真-17① 花の谷コース・復路終点駐車場
手前、金畑下橋(かなばたけした
ばし・くるみ川)付近から望む。
(花見山全景)H310408



写真-17② 全 (花見山(本体)全景) H310408



写真-17③ 全 (花見山奥・鈴ヶ入川上流)
H310408

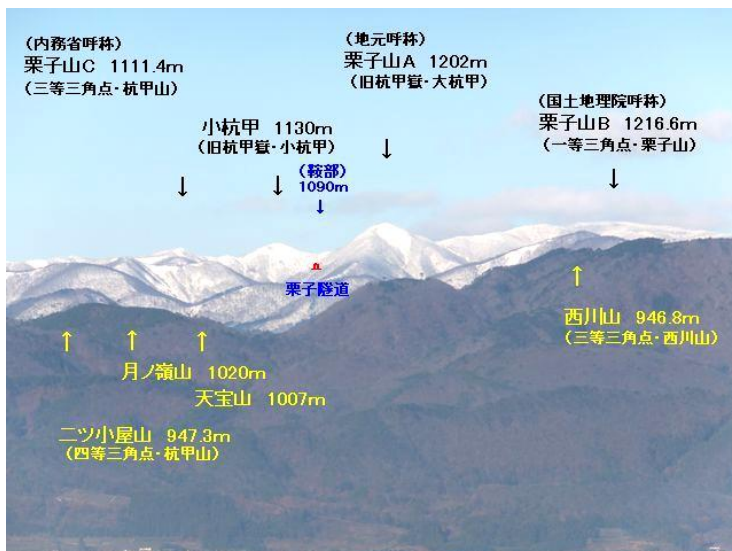


写真-17④ 全 (花見山西側丘陵(鈴ヶ入川
左岸)全景) H310408

5. 栗子連山あれこれ

あちこちから眺めた栗子連山をひとまとめにしてみました。

栗子連山の各山の名称は参考写真を添付したので参照されたい。(参考写真-2)



【参考写真-2】 栗子連山の名称。
H271209

なお、栗子連山の名称の経緯について興味を持たれる向きには下記サイトをお読み下さい。

「平成最後の冬がゆく」

<https://ootaki.xsrv.jp/Hsaigonofuyu.pdf>

(2 頁、14～16 頁)

(写真-18①～写真-21③ 14 枚)



写真-18① 栗子連山、60分頂上コース、最初の七曲坂から望む。



写真-18② 全

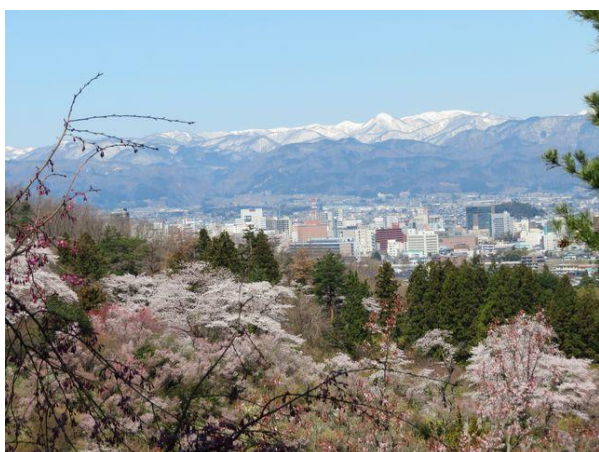


写真-18③ 全



写真-18④ 全 I(平坦部)

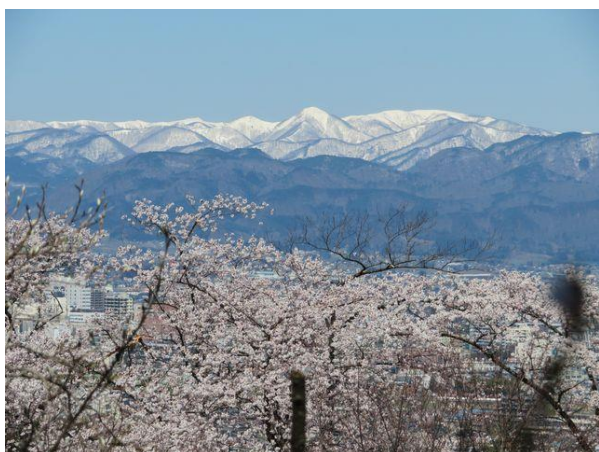


写真-19① 栗子連山、60分頂上コース、二つ目の七曲坂から望む。

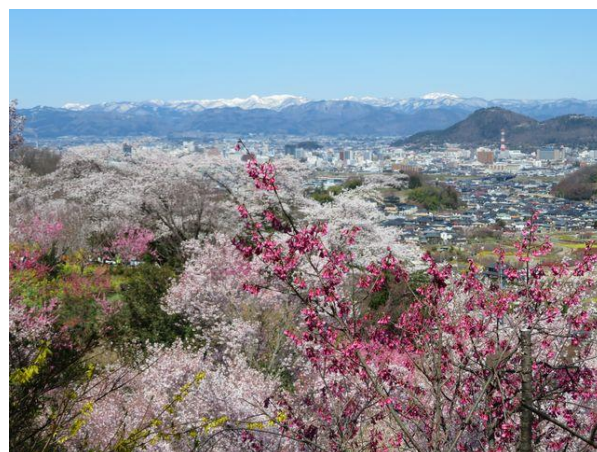


写真-19② 全



写真-19③ 全



写真-19④ 全



写真-20① 栗子連山、60分頂上コース、
頂上(付近)から望む。



写真-20② 全



写真-20③ 全



写真-21① 花の谷コース奥撮影ポイントから
望む。



写真-21② 全



写真-21③ 花の谷コース変則十字路口付近から望む。

おわりに

花見山の紹介は何時も写真のみですけれども、今回は各見学コースについてその概要を若干紹介してみました。ただし、現地の地形・地名等について不案内で記述が不明瞭になっていると思われるかもしれませんがご容赦下さい。花見山の素晴らしさが少しでもお伝えできれば幸甚です。

今回もHP管理人紺野文英様には編集で大変お世話になりました。衷心より御礼申し上げます。

次ページに別添資料を添付



hanamiyama-map2019 一般社団法人 福島市観光コンベンション協会 HP より